



心學道の話
 六篇上
 十六

9
 3895
 16



門口 9
號 3895
卷 16



心學道之話六篇卷之上

藝陽 奥田壽太講話

東武 平野橘翁聞書



孟子曰莫非命也順受其正是故知命者不
立乎巖牆之下盡其道而死者正命也桎梏
死者非正命也

是へ孟子盡心の上篇ふ出てある章で則大賢孟子の語
れざりまはれが是ハやつをり論語ふ出てある。孔子の語ふ
君子二三の良りり天命と良大人と良と聖人の言と良ると

早稻田大學圖書館
藏 27.6.16 受書

うなぐおけし移るじうからはやうの活とやうふあつて
 を我傷つめふあつてふあつてぬまづづの世かううアヤ
 小そひかつてふ日さぬや。日月さぬとちつてふも
 息あふスウリく伸たり。又雨とふししう風を
 吹しう指光りとさせう。神鳴を鳴せう春
 の野ふとまうまう秋ふあまばあうまう暖と
 冷しうう濡しう乾しううて。此世界とピチく
 活してあううきうてあう活と主宰さぬう。あけう
 ばあぬう。そま宰さぬのふとて傷たてん天といひ
 まふや。そまかすてそま宰さぬと神道てん

神も佛法でん佛もといひやすが。それいこの日本と
 漢土と天竺うう。扱は附ていふ物名で。そのまう神徳や
 貴ていふふの場たうう乾えどやの大極どやの極どや
 のまといひ神道でん國常立尊どやの天御中主尊どや
 のまといひ又佛法でん無量壽佛どやの阿弥陀佛どやの不
 可思議光如来どやのと。イヤ。ハヤさぬく小貴譚と名が附て
 あうがゆふもそれく別よかうう。そのまがらうのでハ
 めいのどや一休の歌ふ

物の名もあふよりてかりうう。龍波の音ハ仔細の漢と歌
 それおけんまといふものいそ中うふ名がうう。かうう。

附て有とぞ入中うそれくあふかすつこりのがあるやうに
 思ふううそしてツイウらくか争ひるが發るそれハ早竟幼
 雅そとから只そを者と字ととせ見へくあるむつうりて肝を
 かその活さそのがまど見へぬく發るすりトヤそれです
 一休和尙のよまわれと歌ハ

若ふ迷ふ人のころ後のおろうこよ合て知り強おんを牡丹條
 如程お花といつて牡丹條といふはたさふ遠くさるるや
 けとどそのおと味ひよ何おもらぐよこるハあいな是と
 皆さん方の身でつて名ても同じるもどや西落くの身
 へたつて一人でも向ふまへふよつていらくこ名と附て

呼よませ入まぐの。あうーか入まつあとは申まよ。私わが名なら
 万ま屋や万ま無む情じやうとやてたつて一いつ外がおうねといふ人ひとが
 あらふも知しまぬがサア万ま屋や万ま無む情じやうといふ名なハ世よ間ま通と用う
 の熱あつ名なでたつて一いつやけとどその万ま無む情じやうはよ入ま入ま
 およらうといふくよ名ながかう情じやうすつその万ま無む情じやうの熱あつお
 いそせうといふ息いき子こといふ中なでらういふよこそ万ま無む情じやう
 友とものまといそせう親おや父ちちといふであらうよ。又その見みふいそせ
 うう名なといふでらういふよ名なのまといそせう見みといふで
 あらういふ。女め房ぼうよといそせう夫つまといふ名な。赤あか朱しゆかといふ
 主人しゆじんといふ名な。伯おや父ちち伯おや母ははかといふ名な。甥せうかといふ名な。

といふ名聲（せいせい）かゝる（あ）男（おとこ）といふ男（おとこ）かゝる（あ）聲（せいせい）といひ笑（わら）ひも
 名（な）がある（あ）や知（し）とぬ（ぬ）が。その名（な）を（を）得（え）た（ら）の（の）たつ（た）と一人（ひとり）ト（ト）や
 とうどそれと固（か）ト（ト）する（す）でたつ（た）この世（よ）の（の）全（ぜん）才（さい）
 うぬと海（うみ）の方（かた）や。又その世（よ）の（の）あされを（を）で（ら）う（う）く（く）小
 名（な）と附（つ）て（て）い（い）ひ（ひ）ま（ま）は（は）が（が）名（な）よ（よ）の（の）少（す）も（も）用（もち）ら（ら）な（な）か（か）し
 名（な）の（の）何（なに）とあり（あ）と得（え）く（く）の（の）好（す）み（み）を（を）あ（あ）よ（よ）し（し）て（て）是（こ）れ（れ）よ（よ）い（い）が（が）は
 世界（せかい）の（の）何（なに）であ（あ）り（あ）ふ（ふ）と。その法（は）と主（しゅ）宰（さい）さ（さ）ぬ（ぬ）か（か）し（し）命（いのち）令（れい）と
 受（う）て（て）あ（あ）ら（ら）う（う）と（と）世（よ）へ（へ）生（な）れ（れ）て（て）出（い）て（て）その（その）生（な）れ（れ）知（し）る（る）生（な）勢（せい）の
 續（つ）く（く）る（る）と。仏（ぶつ）法（は）で（で）の（の）阿（あ）字（じ）と（と）の（の）が（が）孟（めい）子（し）の（の）それ（それ）と法（は）然（ぜん）
 の（の）れ（れ）も（も）い（い）つ（つ）て（て）その（その）名（な）と命（いのち）と（と）して（して）寐（み）さ（さ）う（う）起（お）こ（こ）う（う）

吟（ぎん）う（う）ら（ら）る（る）こ（こ）し（し）う（う）呼（こ）吸（そ）動（どう）静（じやう）起（き）居（き）語（ご）點（てん）志（し）あ（あ）ら（ら）う（う）ち（ち）小
 ツ（つ）イ（い）死（し）亡（わう）て（て）仕（し）舞（ぶ）世（せ）界（かい）あ（あ）ま（ま）ば（ば）。そのハ（は）ア（あ）ス（す）ウ（う）の（の）續（つ）て（て）や（や）う（う）の（の）長
 い（い）も（も）短（たん）い（い）も（も）位（い）の（の）多（た）い（い）も（も）低（い）い（い）も（も）幸（しあ）運（うん）あ（あ）も（も）假（か）運（うん）あ（あ）も（も）皆
 こ（こ）し（し）う（う）く（く）その（その）天（てん）の（の）命（めい）令（れい）で（で）あ（あ）ら（ら）う（う）の（の）あ（あ）ら（ら）う（う）の（の）あ（あ）ら（ら）う（う）それ
 で（で）ま（ま）ま（ま）づ（づ）孟（めい）子（し）が（が）命（めい）小（せう）悲（ひ）む（む）とい（い）う（う）莫（もく）也（や）とい（い）う（う）も（も）こ
 ち（ち）う（う）く（く）その（その）也（や）。あ（あ）ら（ら）う（う）の（の）も（も）こ（こ）ち（ち）う（う）く（く）の（の）生（な）れ（れ）命（めい）。天（てん）命（めい）の
 あ（あ）ら（ら）う（う）の（の）あ（あ）ら（ら）う（う）の（の）あ（あ）ら（ら）う（う）と（と）その（その）天（てん）命（めい）令（れい）の（の）あ（あ）ら（ら）う（う）と
 大（だい）切（せつ）よ（よ）ち（ち）て（て）あ（あ）ら（ら）う（う）の（の）非（ひ）小（せう）仕（し）や（や）う（う）の（の）あ（あ）ら（ら）う（う）の（の）あ（あ）ら（ら）う（う）と
 ア（あ）ノ（の）庭（てい）よ（よ）あ（あ）ら（ら）う（う）草（そう）木（ぼく）あ（あ）ら（ら）う（う）の（の）あ（あ）ら（ら）う（う）でも（でも）考（かう）へ（へ）て（て）あ（あ）ら（ら）う（う）と（と）ま（ま）う（う）せ。
 美（み）揚（やう）と（と）や（や）の（の）杜（と）鴈（おん）苑（えん）と（と）や（や）の（の）兼（けん）と（と）や（や）の（の）南（なん）天（てん）獨（どく）と（と）や（や）の（の）こ（こ）い（い）ふ

中うさるものも木よりちがひたふけきど。あはれまはらまら
 だけの天命ゆゑんがらまがたさうあううと。まはれみ
 あつてもとては木の木や花の木れやうあ大さるみよ
 あつらうも出まきど。その又木の木や花の木があれも根も
 あり葉もあう枝もあるものじやあら。あのを一たん大
 さうあつてえんせみこはまがめんがまうんども。とては
 榎木や楠木や檜木のやうあ大木よりあはれきぬ。又木の
 肉でも蘭じやの子羊まじやの石昌蒲じやのこつふ
 りのこつふと生れ合のよひ葉中ら。結構な紳一徳れ
 て床の上よりうれ人は貴族せらるが。それよ比べうんる

とあはれ目くたづつは煙草のこつふものも。まはれまは
 ちがひたあいがあはれ生れ合のあはれまはれまはれまは
 じや。まはれはあはれあはれあはれあはれあはれあはれあはれ
 生れあううと天窓と切らまううと切らまううと
 ちうとも。我後木枝葉と紳まはれまはれまはれまはれまはれ
 一本のまはれ葉と十枚の十は五枚まううと残されて。まはれま
 らあはれまはれまはれまはれまはれまはれまはれまはれまはれ
 ちうきて百姓あはれ火爐のうへに釣られ。下から煙
 でプウ〜らまはれまはれまはれまはれまはれまはれまはれまはれ
 と。それう〜りあう〜と繩で志たうれまはれまはれまはれまはれ

承引物されしはたゞそ辱の切樂の上へ穿られ唐丁で
流んど小刺され。その果は火のうらぐりやが。何と同一し
の申おもせしを合の忍みもあつるものじやナまうしあが
らたむこのそもと何とも思らば。只天命の候より身残
りしせきつゝ居るゆへちよろどとそれだけよか

天子將軍様かゝる万民は可愛がらむ。ちんふの宮は
産後でも三ア万幸とせよ。あされとも石昌藩と
召取あされしものいひせぬ。ゆゑより先之産敷へ出てまら
むたむこゝと貴族せられ。人は世せしむるも辰よあつては又
申しく蘭や万幸まや石昌藩の神様をこゝろでんあふ。人

おとこをやされる。人もてゝどらのそりかともので者
の菅丞相様へは程お徳の言ひゆきであつてが。悪人の
謗言ふよつて。遠いイ統紫の國へ左遷よ遠あされ。終り
そのまでも果あされとけきと。生涯の徳がゆきり揚れ
てあつてゆへ後よ天満宮といふ宮号までも下され
今でん何れも知ぬ子候やが天神様といひて崇めまら
るゝ。あつると人の只く徳のせしめ合のあつると知て。解外せ
るゝ中むむ只我ま前の道を大事大切と勤てあつるが。つち
よ一休和者の秋ふ

りがぬいゝあふしゝぬあまど天の作老のそ國を源はし

せうせ天乃恒せといふものやけほど。物の清と天
 命の及が知れぬとその氣氣わくさるる直と氣を
 しと年中のうらうあそんで居て。そつてあつて
 恒せとやのイ天乃恒せとやのつて居るそれと
 ど。氣氣が日知ともんまじよ大海へ海をき出して
 あつて恒せの天乃恒せのつて居ると同じで
 老いするの天上とや。さうにうらう人ハ只此ハアスの
 主と知て。清と天命といふものを知り明らぬ物を
 あらぬるでいざり申はじや。さうあつてとんまじよ
 人であらうといふ天命のあつて居る事ハ物事

小らふそれと一^レ生死のつて居る。世ハ世の
 の生れて物の方のつて居る。とばかりのあつて居る
 とや。よつてあつて居る。物のあつて恒せ天乃
 恒せで。は方からつて居る。自力のつて居る。物事
 ぬ。死の方のつて居る。モウ。はかど物の生てから居る
 りや。終つてあつて居る。小人ハ大をば方から居る
 が多い。さうやあつて居る。つて居る。孔子さうや顔子や
 曾子のさうや。四方ハ第一身の内ハが。つて居る。さう
 悔とが深く。身の内ハ第一身の内ハが。つて居る。さう
 皆天の命令だけの命数と。つて居る。つて居る。つて居る。

かゝれるもよや。志くしそれよはひくも只今皆さるちよ
と此尋中やほるるがびざりやますが。外のみりてハ此ざり
やせぬ。只今此あさんや私ホが身よ強く持合して
居るものの中でのつち大切なるもの何ぞびざりませ
ふ。むそら不着て此ざり衣被じやの襦のおどやの
のいおの是ハその此襦の類よ比べて凡そ何ぞもあ
るよどやか。それうの皆故ては終てそのかゝる中
で吟味してあらう。又窓であらうもであらうは
であらうは眼であらう鼻であらう耳であらうは
であらうは口ツツく吟味して凡そと皆入用なる鼻で

大切なるものちがひもあ。又眼の代りと耳で漱ふ
といふ事も皆あ終ハ口の代と鼻で仕よふといふ事も
出来ぬものあ。そのやうな賣る人であらうと。欲の
強い人であらうと。あやしの眼と汗服金千両で買ませ
う。賣て下さうぬといふこと。めつと小賣ものでハ
ざりませぬ。さういふと此五のばかざりといふもの
一、金銀よ積つて身と實よ何方あも易られぬ大切
なるものでござります。その又何方あも易られぬ大切
世かゝるもばハアスウの命があげられんや又何
の役も立ぬので一日も交へ置るも出来ぬ。いづれ

忠義といふは比べざるものなり。軽いものも
 のどや。命ハ義よつて將しといふもそのみで。畢竟
 及と死ふが爲の命。命と法がうがたぬの及でいふは
 そんなあつて互に世命のわらんかぎり親うん存はま
 しの忠義夫婦ハ和合兄弟ハむすぶく他人の交りふ
 ハ信実と以て交るが人の及ぶやふよつて親めぬる後ハ
 あつねるまでいひざりませぬ。ちとマア考へていふとじ
 ませ。あつてはあつていふとどし中かより私ハよつ
 かとあつていふものでそのとつうの人の及と力ハい親
 るものやうにせしめられも知れませぬが中しく私ハ

さ中かもののでいひざりませぬ。あつていふとどし中かより私ハよつ
 かの及と力ハい親るものやうにせしめられも知れませぬが中しく私ハ
 ちとマア考へていふとじませ。あつてはあつていふとどし中かより私ハよつ
 かとあつていふものでそのとつうの人の及と力ハい親るものやうに
 せしめられも知れませぬが中しく私ハ
 弱い男が俣勢系官とあひきて同律の人と強ひあ
 ると同しうで。実ハ信をがいつて来りぬぬのそれ
 ありふて理は同律人と強ひあつていふ及がぬはあれ
 ど。そこが弱味味のかまはさあつていふを
 ぬくても外よつていふ人があつていふやうに細い中
 があるがしていふ一人をて肉をうむ物にえら

ありやせぬのじや。それでアあちこちとくく月俸の
 人を誘ひあつたよふ月俸と一人ありともたんとくく
 らくても月俸と替つた自分もあつたよふとくく
 つくやうなものでござりやせぬのじや。それでおれは
 おまへもあつたよふにござりやせぬのじや。それで
 つくやうなものでござりやせぬのじや。それで
 中されぬアそれのそまふしては凡夫といふもあつた
 ふういふあつたのでお業と精進しておが誓ひする
 う奉公と大切の節ののでござりやせぬのじや。それで
 分限とちて居るのであつたお金銀が溜るつたよふと

正當ありして居るので世界の人は可憐がくもつた。お又お
 おれの子が御業とそまふつたよふつたよふつたよふ
 ありやせぬのじや。それでおれは凡夫といふもあつた
 ふういふあつたのでお業と精進しておが誓ひする
 う奉公と大切の節ののでござりやせぬのじや。それで
 分限とちて居るのであつたお金銀が溜るつたよふと

